

NanoTerasu の登録施設利用促進機関として

—ナノテラス事業推進室の開設—

公益財団法人高輝度光科学研究センター
理事長 雨宮 慶幸

東北大学青葉山新キャンパスに建設された 3GeV 高輝度放射光施設 NanoTerasu (ナノテラス) が本年 4 月から施設運用を開始しました。NanoTerasu は我が国初の第 4 世代放射光施設で、軟 X 線・テンダー X 線のエネルギー領域の光がこれまでに比べて約 100 倍の輝度で得られるようになったことが大きな特徴です。NanoTerasu は、国の主体である量子科学技術研究開発機構 (QST) と地域パートナー (光科学イノベーションセンター (PhoSIC) を代表機関とした宮城県、仙台市、東北大学、東北経済連合会の 5 者) による官民地域パートナーシップにより整備されました。

これまで理化学研究所放射光科学研究センター (RSC) と共に、JASRI は NanoTerasu の整備に協力してきました。また、昨年 8 月には JASRI 内にナノテラス対応検討タスクフォースを立上げ¹⁾、登録機関の申請に向けて準備を行ってきました。その結果、本年 4 月 1 日をもって NanoTerasu の登録施設利用促進機関に登録されました。それに伴い仙台にナノテラス事業推進室を開設し、播磨の関係部門と連携をとり登録機関の業務を推進するための組織改編を実施しました。現在、NanoTerasu 選定委員会の設置等、課題選定に向けての準備を開始したところです。当初は、共用ビームライン整備の Phase-I として QST が設置した 3 本の共用ビームラインにおける共用業務 (利用者選定と利用支援) を実施します。本年 10 月には共用ビームライン利用研究課題の募集を開始し、2025 年 3 月に共用を開始する予定です。

今後、共用ビームラインにおける研究成果創出の最大化を目指して、QST との協力体制を構築していく所存です。また、共用ビームライン整備の Phase-II は議論が始まったばかりですが、QST と共同の高度化研究体制を構築して、その整備に積極的に参加して行きた

いと考えています。

SPring-8/SACLA 及び NanoTerasu は、世界の放射光研究の中核となるべき研究基盤施設であり、更に、SPring-8-II の実現に向けた準備も進んでいます。JASRI としては、これら先端的研究施設の中核として、他の施設ではできない役割を果たせるように、各光源の特徴を最大限に活かす運営を目指したいと考えています。SPring-8 と NanoTerasu のワンストップ体制の構築、研究成果創出に必要とされる各種人材 (研究者、技術者、コーディネーター等) の育成等を行い、利用者本位で研究開発による価値創出を「先導する」、「つなぐ」役割を果たしたいと思います。

前回の本稿²⁾では、「JASRI Vision 2030」を紹介しました。その骨子は下記です。

- I. 安全で安心な研究環境と職場環境を創る。
 - II. 施設者と密な情報共有と信頼関係を構築し、第 4 世代放射光施設 (SPring-8-II・NanoTerasu) を核とした放射光研究をバランスよくリードする機関となる。
 - III. 利用者本位で、そのニーズに的確に応える利用者支援のための適切な仕組みを創る。
- 改めて、上記を確実に進めて行きたいと考えています。今後とも、皆様のご協力とご支援をお願い致します。

参考文献

- [1] <https://user.spring8.or.jp/sp8info/?p=42156>
- [2] <https://user.spring8.or.jp/sp8info/?p=42738>